



学校だより 第9号
令和8年 1月
富山市立豊田小学校

あけまして おめでとうございます

校 長 吉野 哲

あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。新しい年、令和8年がスタートしました。豊田小学校の子供たちが健やかに成長する一年になってほしいと心から願っています。

さて、1月11日に豊田校区はたちの集いが行われ、私も参加いたしました。100名以上の二十歳を迎えた卒業生が会し、式典が執り行われました。当時の担任の先生方と若者が思い出話に花を咲かせて楽しく談笑している様子はとても素敵だなと思いました。小さかった教え子が立派な大人になっている姿を見ると、担任冥利に尽きるなと感じます。そこで、私自身の教え子とのエピソードを一つ紹介したいと思います。もう十数年前のことです。ある日、当時勤務していた学校に、「〇〇署の〇と申します。吉野先生はいらっしゃいますか？」と訪ねてきた方がいました。「えっ、何か悪いことしたかな？」と思って玄関に行くと、かつての教え子だった〇君が立っていたのです。「僕、警察官になりました。多くの人の役に立てる警察官になりたいと思います。小学校の時、先生から教えてもらったことを思い出して頑張っています。」当時の面影を残しながらも、引き締まった表情で立っている〇君の姿を見て、私はとてもうれしくなりました。

4月の学校だよりでも書きましたが、学校は社会の入り口だと思います。今、思い返してみると、そのとき私はかつての教え子から「その学校という小さな社会の中で学んだことは、無意味なことではなく、将来に影響を与えることがあるということ」「社会に出て働き社会人として生きることには大きな価値があること」を教えられたのだということに気付いたのです。つまり、制服姿に身を包み、頼もしい姿の〇君から、師であるはずの私が学んだということです。

〇君が警察官を目指した過程には、様々なことがあったと思います。しかし、〇君の言動から、社会の入り口である学校での学びが、彼のその後の人生に影響を与え、〇君なりの努力と工夫があったのではないかと推察します。

子供たち一人一人には、それぞれその子の人生があります。そして、心も身体も日々成長しています。周りの環境や世の中の変化と対峙することで、苦労なく平穩に成長していくことは不可能に近いはずです。そんな時には様々な決断と困難な状況に立ち向かう勇氣、自分自身を信じる力が必要になります。また、時には周りから支えられることもあるでしょう。自分と周りに心配りをしながら、人生を前へ前へと進んでいくことができる豊田っ子になってくれることを期待しています。